



— 青と緑の躍動する村 —

号外

平成19年10月

議会だより

うんま

2007年9月29日(土)



二度と悲惨な戦争を起こさないために

子どもたちに、この歴史の真実を正しく伝えること

それはわたしたち大人の責務です

9.29 教科書検定意見撤回を求める県民大会に

参加した恩納村のみなさんの一言メッセージ



この集会を見よ!はやく撤回しろというのが民意だ!
20代男性

感動しました。これこそ、うちなーんちゅの心ですよ!
40代男性



参加者の人数見ただけで感動しました。みんなが同じ方向に向って、一つになっている。
20代女性



若い人から、お年寄りまで、本当にたくさんの方が集まって、訴えた怒りを、国は誠意を持って受け止めてほしい。
高校生

参加してよかった!熱い思いが伝わってくる。うれしー!
20代女性

この集会に参加できてよかった。将来、参加したことが自信になると思います。

ワジワジしています。沖縄を見下さないで!



よろこび大です。開催者に感謝! 国と文科省にがっかり! 県民の声を聞いて変わってほしいです。

この集会を機会に撤回実現!
40代男性

国は都合の悪いことを隠したり、正当化したりする。沖縄をばかにしているし、こんなことから、隣国とも仲良くできない。
30代男性

うそはついてほしくないです。事実は事実として伝えてほしい。
50代男性



小さい子どもを連れれたお父さん、お母さんが多いですね。杖をついたお年寄りもいるし、学生さんも多いな。全ての世代が集まっていますね!スゴイ!
30代男性



先の大戦で亡くなった先人の思いを考え、事実をねじ曲げようとする政府に怒りを感じる!
30代男性





会場に着くまで、まさかあれだけの人が集まるとは思わなかった。検定の問題で、これほど県民が危機感を持っているのかと思った。これからの展開はわからないが、われわれも、何かできるか、対処していきたい。
村長



県民の思い、声を国は解っているのか。歴史を捻じ曲げてはならない。これまで、沖縄県民をないがしろにしてきた結果が11万人というかたちになったと思う。国は沖縄の思いを少しでも理解する努力からはじめるべきだ。
議長



真実は真実として伝えるべきだ。大会に参加できなかった方もいるだろうが、これが全県民の意志であり、うちなーんちゅの心のうねりを感じた。平和であること、それが、一番大事だ。軍国主義を経験したわれわれは、良くも悪くもなることを知っている。だから教育が大事なんだ。
教育長

1つはね、敵に会ったとき投げなさい。殺られる前に投げなさい。
1つは捕虜になったとき、辱めをうけたらいけないから、爆発して死になさい。自爆しなさい。

上原米子さん 80歳(山田区在住)



多野岳に移動する夜、二つずつ渡されて、ポケットに入れた。一つはね、敵に会ったときに投げなさい。やられる前に投げなさい。で、二つは捕虜になったときに辱めをうけたらいけないから、爆発して死になさい。自爆しなさい。二個ずつ。また、あれは安全弁というのがついているから、この安全弁を抜いて、口をカーンと叩かんと破裂しないわけ。だけど、安全弁とつてカチッとなにか鳴ってるでしょ。ちようどインクビンみたいな

感じだからね。開けたら三秒ぐらいで破裂するよ。これの使い方で教えられた。投げはしなかったけどね。こうしたら破裂するから、自爆するときはそうしなさいということ。もうポケットに重くもあるしね。わたしたちができることは、語り継ぐことしかできないからね。足腰立つ間はやるけど、もう足腰立たなくなったら…。
それでね、戦前の看護隊で行った七つの女子校で、体験者を各校二人ずつ集めて、本作ったわけ。六月二十三日の慰霊の日にできあがつて、これにみんな入れてある。体験したことは全部。本でもつくつて残しておかないとね。
〔第三高等女学校四年生の一九四五年四月十六日に八重岳の野戦病院から、多野岳への撤退命令が出されたときの体験談です。〕

**本当に正しいのはなににか
考えるきっかけに!**

最初は、沖縄のニュースとしてとらえていました。読谷高校では、自治問題に強く関心をもつ生徒が多く、僕自身も参加の前から強い憤りを感じていました。当日の参加目標が五万人だったのが、十二万人以上ですから、とても驚きましたし、うれしく思っています。成功してよかったです。
県内外の同世代のみんなに伝えたいです。国が真実を隠そうとすることに心が痛みます。戦争は醜い。でも、その真実から目を背けず、現実にあつたことを受け止めてほしいです。
この大会が、次の世代を担うわたしたちにとつて、本当に正しいのはなにかと考える二つのきっかけになつてほしいです。



県民大会で高校生代表として訴えた、読谷高校三年生の津嘉山拓大君(谷茶区出身)

県民大会が終わつて、学校には県外の学生さんたちなどからメールがありました。
「すごかった。深く考えるきっかけになった。」という感想が多数寄せられています。県外との温度差を感じていたので、とても勇気づけられました。
わたしたち高校生も取り組まなければならぬことが、まだまだあるのではないかと、思います。

○発行：恩納村議会

住所：沖縄県国頭郡恩納村字恩納2451番地

○編集：議会広報委員会

電話 (098) 966-1199

メールアドレス:gikai@vill.onna.okinawa.jp